

# 情報レポート 平成24年1月分

(平成23年12月集計)

## I. 概況

兵庫県下情報連絡員80名の平成23年11月分の報告によると製造業40のうち前年同月比の業界の景況は、好転が7.5%、悪化が52.5%でDI値は△45.0と前回集計分と比べ、5.0ポイントが改善となった。また、収益状況は好転が7.5%、悪化が47.5%でDI値は△40.0と前回集計分と比べ、2.5ポイント改善となった。

一方、非製造業40のうち前年同月比の業界の景況は、好転が2.5%、悪化が52.5%でDI値は△50.0と前回集計分と比べ、7.5ポイント悪化となった。収益状況は、好転が5.0%、悪化が50.0%でDI値は△45.0と前回集計分と比べ15.0ポイント悪化した結果となった。

10月の鉱工業生産指数は2ヶ月ぶりのプラスとなった。自動車部品などを国内で代替生産する動きが指数を押し上げた。但し、10月の機械受注統計によると、2ヶ月連続で減少した。完全失業率も4.5%に悪化し、消費者物価も二極化が進展している。欧州債務危機や円高を背景に先行きの景気について楽観視できない状況にある。

## II. 業種別状況等

### ① 食料品製造業（神戸食品団地）

冬商品の出荷がピークを迎えたが、暖冬気味であることと中小メーカーとの競合等により、売上は前年同月比並みで、今後多くをのぞめない現状である。

### ② 木材・同製品製造業（播州算盤工芸品）

木工関連は、在庫を積み上げる季節が到来するため、多少の資金不足の傾向が業界全体にある。但し、通年のことで問題なく乗り切れると予測している。

### ③ 印刷業（県域：皮革産業連合会）

高付加価値化をめざした革づくりのために毎年実施している兵庫ニューレザーコンテスト2011表彰式を行ない、応募革の展示を行った。高品質の国産皮革をPRできたらと思っている。

### ④ 鉄鋼・金属製造業（三木金属工業センター）

震災直後は、一時的に売上は落ち込んだが、先月から前年対比でも同じような状況になってきた。全般的には金物業界はかなり厳しい景況にある。

### ⑤ 一般機器製造業（阪神内燃機）

売上は、前年同月の水準と同程度になった。予想よりは、今までの売上が落ちなかったのが幸いであった。原材料・燃料の高騰が続く中で、価格の引き上げの要請があり苦慮している。

### ⑥ 輸送用機器製造業（川重関連）

売上高は前月比減少した。今月も相変わらず東北新幹線がメインである。輸出は、台湾とワシントンの地下鉄、ニューヨークの郊外電車が主なところである。

⑦ 卸売業（県域：電設資材卸）

商品により、売れ筋商品と売れ行きの悪い商品のものがあり、プラス・マイナスで何とか維持できている状況である。大手メーカーの工場閉鎖により、今後影響が出てくるものと予想している。

⑧ 小売業（県域：牛乳）

11月前半は酪農業界を挙げてTPP反対運動一色となった。宅配販売店においては、TPPにうつつをぬかしている事態ではない。

⑨ 商店街（姫路御幸通）

11月12日～13日にかけてB-1グランプリが開催され、御幸通商店街もぎっしり来場者で埋まったが、売上が良かったのは飲食の店だけで、物販店は売上がとれず、通常より売上が悪い店もあった。

⑩ サービス業（県域：建物総合管理）

講習会や研修旅行等の参加者も前年度よりも多くなり、久しく活気あふれるムードに少し明るさが感じら、明日への原動力になればと思っている。

⑪ 建設業（県域：電気工事業）

組合では、工事店が直接ユーザーと工事の受注契約が結べるよう下請けからの脱却に向けた研修会を企画し、開催する予定である。

⑫ 運輸業（物流ネットワークシステム）

軽油価格が大幅に上昇で深刻な状況は変わらない。年末に向けて荷動きが活発になることを期待したが、多くは望めない。

景気動向（前年同月比）の推移（DI図）

